

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3
学年	1年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科		
教科書(出版社)	最新数学 I (数研出版)				
副教材(出版社)	パラレルノート数学 I (数研出版) 3 ROUND 数学 I (数研出版)				
授業の概要	数と式、方程式と不等式、2次関数、データの分析は中学校で既習の内容を復習し発展させたものである。集合と論証、三角比は新しい内容である。				
授業の目標	数と式、集合と論証、2次関数、データの分析、三角比について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)	学習目標			
1学期	第1章 数と式 第1節 数と式 第2節 1次不等式 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	<ul style="list-style-type: none"> 整式についての加法、減法、乗法の計算及び展開公式・因数分解公式を自在に使いこなせるようとする。 不等式の性質を理解すると共に、1次不等式の解き方を修得する。 2次関数のグラフが放物線であることを理解し、式変形をし、グラフを描けるようとする。2次関数の最大・最小を理解し、具体的な問題に応用できるようとする。 			
2学期	第2節 2次方程式と2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 正弦定理・余弦定理	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフと2次方程式の関係を理解し、2次方程式の解を求める様々な方法についての技能を修得すると共に、2次不等式を解けるようとする。 三角比としてのタンジェント、サイン、コサインの意味を理解し、直角三角形の辺と角の間の基本的な関係を使えるようとする。 座標を用いた鈍角の三角比の求め方を理解する。 一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式と、正弦定理、余弦定理を導き、それらを活用できるようとする。 			
3学期	第5章 データの分析 第2章 集合と命題	<ul style="list-style-type: none"> データを整理する必要性を理解させ、度数分布表、ヒストグラム、相対度数、箱ひげ図、相関係数を知る。 集合についての基本的な用語やその意味を理解する。命題の真偽、必要条件・十分条件、命題の逆・対偶について理解し、対偶を利用した証明について知る。 			
観点別評価	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	
	関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用できるか。	事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決できるか。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けているか。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期検査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				